

血液オプション検査のご案内



血液オプション検査では、
通常の健康診断だけでは分からない
さまざまな疾患を血液検査で調べることができます。

- 甲状腺機能検査**
 - 甲状腺疾患
- 心機能検査**
 - 心機能低下
 - 心不全
- 肝炎ウイルス検査**
 - B型肝炎
 - C型肝炎
- リウマチ検査**
 - 関節リウマチ
- 標準血液検査**
 - 肝機能検査
 - 脂質検査
 - 血糖検査
 - 貧血検査
- 胃がんリスク検査**
 - 胃がん
 - 萎縮性胃炎
 - 胃・十二指腸潰瘍
 - 慢性胃炎
- 腫瘍マーカー検査**

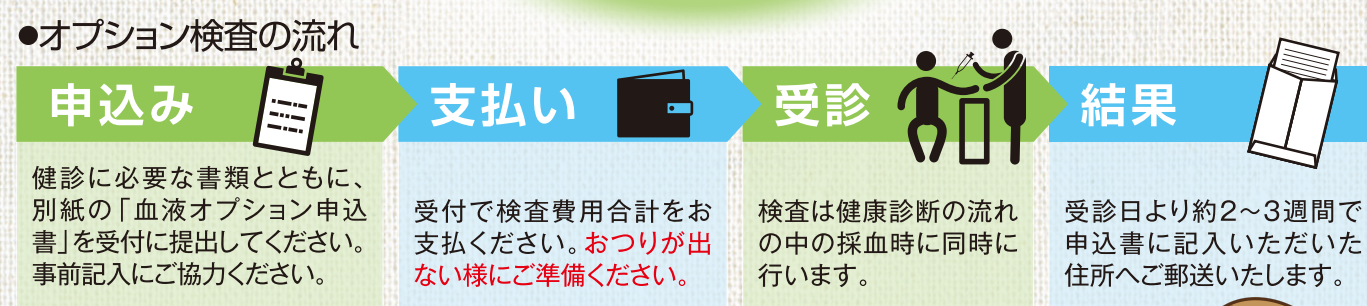
がんの補助診断に用いられる腫瘍マーカー。血液検査で早期発見に繋がることもあります。

 - 広範囲のがん
 - 隣臓がん
 - 肝細胞がん
 - 卵巣がん
 - 前立腺がん
- アレルギー検査**

アレルギーは症状が出ていなくても検査することで未然に防ぐことができます。

 - 鼻炎チェック
 - 喘息チェック
 - 皮膚炎チェック
 - 食物アレルギー
 - 花粉症
 - 動物アレルギー

標準血液検査は、健康診断にて血液検査がある人は不要です。



ご注意

- ・検査費用につきましては、会社・健康保険組合等からの費用補助は基本的にございません。
- ・健康診断の結果とは別便での発送になりますので、到着が前後する場合がございます。ご了承ください。
- ・なお、定期健診や人間ドック等を同日受診された方は、健康診断結果通知票にもオプション検査(アレルギー検査を除く)を含めた結果・判定が表示されます。
- ・検査結果で要精密検査となりましたら、最寄の医療機関をご受診ください。

キャッシュレス決済をはじめます。 巡回・施設・オプション検査等でキャッシュレス決済がご利用可能になりました。

- 国際ブランド(クレジット・デビット・プリペイド)
 - VISA, Mastercard, JCB, American Express, UnionPay
- 電子マネー
 - iD, Suica, Edy, nimoca, manaca, QUIC
- コード決済
 - PayPay, R Pay, d払い, au PAY, Pay, ゆうちょPay

1 胃がんリスク層別化検査(ABC分類)

胃がん

「胃がんリスク層別化検査」は、「**胃がんの発生リスク**」を層別化する検査です。*胃がん検診にかわるものではありません。ヘリコバクター・ピロリ(HP)抗体価検査とペプシノーゲン(PG)検査を組み合わせて、A~Dの4つの群に分類し、胃がんリスクを判定します。

HP抗体価検査 ... ピロリ菌に感染しているかどうかを調べます。
PG検査 ... 胃粘膜の萎縮があるかどうか、その程度を調べます。

検査の結果から

ピロリ菌感染により慢性胃炎が持続している

萎縮性胃炎になってくる...ペプシノーゲン比率の低下

胃がんの危険性がある胃粘膜の状態かもしれない

胃内視鏡検査などで胃がんを調べる必要あり

...ということがわかります。

下に該当する方は、この検査に適しません

- ピロリ菌の除菌治療を受けた方
- 明らかな上部消化管症状のある方
- 上部消化器疾患治療中の方
- 胃切除の方
- プロトンポンプ阻害剤服薬中の方
- 腎不全の方

ABC分類		HP抗体価検査	
		陰性(-)	陽性(+)
		4U/mL未満	4U/mL以上
PG検査	陰性(-)	A群	B群
	陽性(+)	D群	C群

A群	<p>おおむね健康的な胃粘膜です。 胃の病気になる可能性は低いと考えられます。ただし、逆流性食道炎などピロリ菌に関連しない病気に注意しましょう。未感染の可能性が高いですが、一部にはピロリ菌の感染や感染の既往のある方が含まれます。</p>
B群	<p>少し弱った胃粘膜です。 胃潰瘍・十二指腸潰瘍などに注意しましょう。胃がんのリスクもあります。内視鏡検査を受けましょう。ピロリ菌の除菌治療をお勧めします。</p>
C群	<p>萎縮の進んだ弱った胃粘膜と考えられます。 胃がんになりやすいタイプと考えられます。定期的な内視鏡検査をお勧めします。ピロリ菌の除菌治療をお勧めします。</p>
D群	<p>萎縮が非常に進んだ胃粘膜と考えられます。 胃がんなどの病気になるリスクがあります。ピロリ菌感染診断をお勧めします。必ず専門医療機関で内視鏡検査等の診断を受けてご相談ください。</p>

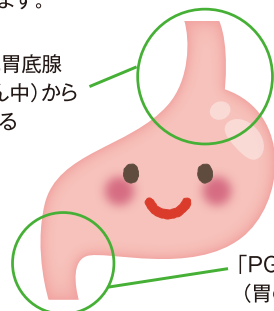
E群 ヘリコバクター・ピロリの除菌治療を受けた方は、ABC分類判定対象外となります。除菌判定の結果に関わらず、E群(除菌群)として定期的に内視鏡検査を受けましょう。
 E群は除菌により胃がんになるリスクは低くなりますが、決してゼロになるわけではありませんので、除菌後も内視鏡による経過観察が必要です。

2 ペプシノーゲン(PG)検査

萎縮性胃炎 胃・十二指腸潰瘍

「ペプシノーゲン(PG)I」と「ペプシノーゲン(PG)II」に分けられます。このペプシノーゲンIとIIの比率を計算する「ペプシノーゲン比率」が、胃全体の萎縮(胃の粘膜の薄さ)度合いを反映するとされています。慢性胃炎が持続すると、ペプシノーゲンI、ペプシノーゲンII比率が低下します(萎縮性胃炎の状態)。萎縮性胃炎になると、胃がんが粘膜から発生しやすくなるため、注意が必要になります。

「PGI」は主に胃底腺(入口~胃の真ん中)から分泌される



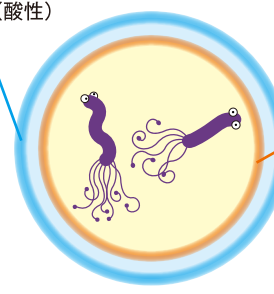
「PGII」は主に幽門腺(胃の出口付近)から分泌される

3 ヘリコバクター・ピロリ(HP)菌検査

胃がん 慢性胃炎

ピロリ菌は、胃の粘膜に棲みつ「らせん形」の細菌です。ほとんどが、幼年期に感染するとされており、除菌しない限り胃の粘膜に棲み続けます。ピロリ菌の持続感染は、胃がんの主な原因であり、慢性胃炎の発症や、胃・十二指腸潰瘍の再発にも関わっています。ピロリ菌に感染していることがわかった場合は、積極的に除菌することをおすすめします。

胃酸(酸性)



「ウレアーゼ」という酵素をだして、アンモニア(アルカリ性)のバリアをつくり、胃酸を中和して生息している

4 心肺機能検査 (NT-proBNP)

心機能低下 心不全

心臓の機能が低下し、心臓への負担が大きくなるほど数値が高くなるため、心不全の診断やその度合いを計るのに使われます。自覚症状が出る前から数値が高くなりますので、心機能低下の早期発見にも役立ちます。動悸、息切れなどの自覚症状がある方や、高血圧、不整脈を指摘されている方におすすめします。

5 甲状腺機能検査 (TSH・FT4・FT3)

甲状腺疾患

甲状腺機能検査は、TSH(甲状腺刺激ホルモン)、FT4・FT3(甲状腺ホルモン)の3つの検査で判定します。

TSH ... 甲状腺ホルモンの過不足を調べます。

FT4 ... 甲状腺ホルモンを作る能力を調べます。

FT3 ... 甲状腺ホルモンの全身への作用を調べます。

甲状腺疾患は、男性よりも女性に多く、バセドウ病(甲状腺機能亢進症)や橋本病(甲状腺機能低下症)は、自己免疫疾患ともよばれています。首元が腫れているような感じがする、声のかすれ、体重の変化、激しい動機、元気がないなどの症状がある方に検査をおすすめします。

6 肝炎ウイルス検査

B型肝炎 C型肝炎

B型・C型肝炎ウイルスは、感染すると慢性の肝臓病を引き起こす原因となります。これまで一度も検査を受けられたことがない方は、一度検査を受けられることをおすすめします。

B型肝炎ウイルス(HBS抗原)

B型肝炎の原因となる抗原を調べます。主に血液・体液を介して感染します。B型肝炎ワクチン接種による予防が可能です。

C型肝炎ウイルス(HCV抗体)

C型肝炎抗体の有無を調べます。以前は、輸血による感染が問題となっていました。C型肝炎はゆっくり進行し、放置すると肝臓の線維化が進み、肝硬変、肝がんの危険性が高まります。

7 リウマチ検査 (RF・CRP)

関節リウマチ

関節リウマチは、免疫の異常によって関節に炎症がおこる自己免疫疾患です。関節の痛み、こわばり、変形などの症状が起こります。特に「朝のこわばり」が典型的な症状です。

リウマイト因子(RF)

自己抗体といわれるもののひとつで、関節リウマチや他の膠原病などの自己免疫疾患にみられるタンパク質の一種です。

C反応性タンパク(CRP)

感染症などの炎症を伴う病気で高くなります。

*関節リウマチの診断は、血液検査だけではできません。

13~18 アレルギー検査

日本人の多くは、何らかのアレルギーにかかっています。アレルギーの原因となるものを、「アレルゲン」または「抗原」といい、スギ、ヒノキ、ホコリ、家ダニ、動物、植物、食べ物など私たちの身近なところに様々な抗原があります。「花粉症、くしゃみ、鼻づまり、目や皮膚のかゆみ、じんましん、喘息」などの症状がある方にアレルギーの原因を調べます。

- 花粉症
- くしゃみ
- 鼻づまり
- 目や皮膚のかゆみ
- じんましん
- 喘息



8~12 腫瘍マーカー

「腫瘍マーカー」は、がんの補助診断に使用されます。しかし、がんが存在しなくても数値が上昇する場合(偽陽性)や、がんが存在するにもかかわらず、数値が上昇しない場合(偽陰性)があります。決して、腫瘍マーカー値の上下のみで、がんの存在を判断できるものではありません。結果値に一喜一憂しないようにしましょう。

8 10 12 CEA (がん胎児性抗原)

広範囲のがん

腫瘍マーカーの代表的なもので、胃がん、膵臓がん、胆道がん、大腸がん、肺がん、乳がんなど広範囲のがんに対して高くなります。また、慢性肝炎や糖尿病などの良性疾患、健常者では加齢や長期喫煙者で高くなります。

8 10 12 CA19-9

膵臓がん 胆道系のがん

消化器系のがんの中でも、特に膵臓がんや胆道系のがんで高くなります。膵臓がんを発症した場合、80~90%の確率で陽性となります。

8 10 12 AFP

肝細胞がん 肝硬変 肝炎

肝臓がんで高くなるほか、肝炎、肝硬変、妊娠などでも高くなります。

8 9 CA125【女性のみ】

卵巣がん 子宮内臓腫瘍

主に婦人科領域の腫瘍マーカーで、卵巣がん、子宮体がんで高くなります。子宮内膜症、子宮筋腫など婦人科の良性疾患以外に、大腸がん、膵臓がん、肺がんで高くなります。女性ホルモン(エストロゲン)の影響を受けますので、生理中、妊娠中などでも高くなる場合があります。

10 11 PSA【男性のみ】

前立腺がん 前立腺肥大症 前立腺炎

前立腺から産生される特異的なたんぱく質であるため、前立腺がん以外の良性疾患(前立腺肥大症、前立腺炎)でも高くなります。



13 鼻炎チェック	ハウスダスト・ヤケヒョウダニ・動物上皮(マルチ)・スギ・カモガヤ・オオワガエリ・ブタクサ
14 喘息チェック	ハウスダスト・ヤケヒョウダニ・動物上皮(マルチ)・スギ・カモガヤ・ガ・カビ(マルチ)
15 皮膚炎チェック	ハウスダスト・ヤケヒョウダニ・動物上皮(マルチ)・スギ・カビ(マルチ)・卵白・小麦
16 食物アレルギー	卵白・牛乳・小麦・ピーナッツ・そば・エビ・カニ
17 花粉症	スギ・ヒノキの花粉
18 動物アレルギー	ネコ皮膚・イヌ皮膚

* (マルチ): マルチアレルゲンは何種類かの物質をまとめて検査したものです。